

公益社団法人静岡県私学協会令和5年度学校教育相談研修会報告書

日時：令和6年1月16日（火）13：30～15：00

会場：静岡県私学会館5階大会議室

講師：スクールソーシャルワーカー（社会福祉士）鈴木洋貴氏

演題：「スクールソーシャルワーカーの機能と連携」

参加者：20人

～講演～

スクールソーシャルワーカーについて知識を深め、学校に持ち帰り教育活動の中で生かしていただきたい。

事前アンケートの結果とその解説

スクールソーシャルワーカーは、学校内外で起こる様々な問題に対して、知見や専門性を持って子どもたちやその周囲の人間に関わる仕事であり、関わった方の well-being を目指して、様々な視点を持って学校教育をサポートするような社会福祉の専門資格で、学校をベースにソーシャルワークを展開している。主な活動内容は（1）問題を抱える児童生徒が置かれた環境（いじめ、生活困窮、ヤングケアラー問題等）への働きかけ、（2）関係機関等とのネットワーク構築、連携・調整、（3）学校内のチーム体制の構築、支援、（4）保護者、教員等に対する支援、相談、情報提供、（5）教職員等への研修活動、（6）学校におけるいじめの防止のための組織への参加の6点。

スクールソーシャルワーカーの「つなぐ」「調整する」「構築する」「代弁する」の4つの機能について。

「つなぐ」の機能は、対象の児童や保護者を、病院や福祉事務所等、問題を解決するために社会資源につなげる役割。

「調整する」の機能は、社会資源や制度を紹介しただけではつながらないので、当事者の話を聞きながら、医療機関や社会資源にどう向き合っているかを共有し、一緒に考えていくこと。安心感を与え、一緒に歩んでいけるようサポートすることもSSWの仕事。

「構築する」とは、学校、地域、行政など関連機関の既存システムがうまく機能しない場合に、地域や学校内においてアイデアを出し合って新しい仕組みを作っていくこと。

「代弁する」機能は、学校が伝えたいメッセージ、あるいは生徒の想いを、本人と信頼関係を築きながら、教師以外の立場で仲介する役割を果たすこと。お互いのズレを認識し、受入可能な方法や、改善につなげていくのが役割。

これらの4つの機能を駆使し、校内で発生する様々な問題に対するサポート策を共に考え、先生方が持つ情報やこれまでの歴史を踏まえて、次の段階を一緒に検討し、仕事を進めていきたい。

スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの違いは、福祉に関する相談の専門職と、心理に関する相談の専門職の違い。

植物に例え、発芽しない種に対して、種の鮮度や、種の成長を阻害する因子等個別の課題

に焦点を当てた支援をするのが SC。種が植わっている土壌や求める環境とのマッチを考えるのが SSW。SSW と SC 重なり合いながら、専門職として学校の中に入っていけることが良いと感じる。

スクールソーシャルワーカーは、「見立ての整理と手立ての提示」を行う。ケース会議等で現状ある課題や情報を整理して、次の一手を考えるというイメージ。ケース会議は、時間と手間がかかるが、時間をかけてこそ、意味のある支援となるため、理解してもらいたい。

ケースの一例。問題のある生徒や世帯を担当の先生が発見し先ずは学年で共有する。校内での連携を考えた上で管理職が SSW に派遣要請。これにより関わりが開始される。

全国的に学校には、実際に擁護が必要な生徒が 1%から 1.5%いると言われている。また、相対的貧困率は 15%から 17%。東京都の調査では約 30%の生徒が学校に通いながら孤立や孤独感の不安を感じている。

保健室登校の生徒に対して、単に教室に戻れという指導ではなく、どうして保健室を選んだのかというところを聞いたうえで指導を展開する必要があると考える。

私立学校にスクールソーシャルワーカーが入るための課題 専門性の担保や人員不足などの課題について静岡県社会福祉士会 子ども家庭委員会で検討している。各学校や協会からも SSW の必要性を発信してもらえるとありがたい。

まとめとして、スクールソーシャルワーカーは、①ソーシャルワークの視点からケースの関わりについての気づきを伝える。どんなに複雑なケースでも行動の背景にある要因を見立て、解決のための手立てを考える。②相談支援の専門職として相談やケース会議など様々な方法によりニーズを整理する。③校内や関係機関との連携方法などを検討し再構築する。

しかし、スクールソーシャルワーカー単独で問題を解決することは不可能。またスクールソーシャルワーカーが問題を発見することも稀。大切なことは、発見したことを抱え込まず、発信すること。学校と SSW、対象者と SSW がうまくつながる事によって支援が広がる。